

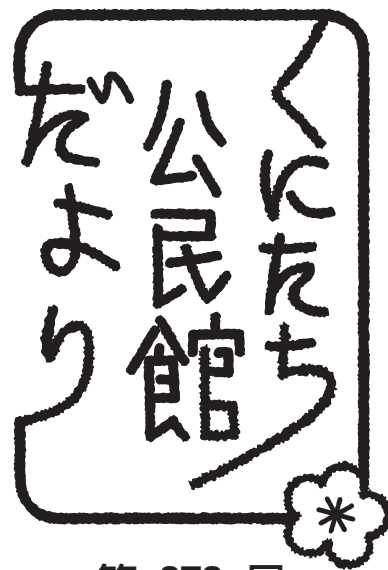
講演要旨 (2016年2月11日実施)

「国土強靱化のゆくえ—東日本大震災から何を学ぶのか—」

2011年の東日本大震災、今年の熊本震災など、近年ますます重要になっている「震災から私たちのいのちと暮らしを守る取り組み」をどのようにひろげていくのか。また、国が進める「国土強靱化」とはどのような施策なのか。東日本大震災から5年目を迎えた今年の2月、改めて震災と防災を考える講座を開催しました。その講演要旨記録をご紹介します。

お話：野元弘幸 (のもと ひろゆき) さん

首都大学東京教授。現在、日本学術振興会科学研究費基盤研究 (A)「社会教育における防災教育のグローバル展開」の研究代表を務め、国内外で防災教育プログラムなどの調査研究や地域実践を進めている。



第 679 号

2016年9月5日

(平成28年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

▲東日本大震災の教訓

私は、震災直後から、岩手県大船渡市にずっと関わり、ボランティア活動と調査を同時にやりながら、40回ぐらいい通っています。大船渡市は小さな自治公民館(地域集会所)がたくさんあるんですけども、その一つの自治公民館に皆さんが避難して、避難所として生活しているところに炊き出しに行ったりしました。

さまざまな調査に関わる中で、日ごろから防災訓練や防災学習をきちんとやっていた地域は、明らかに犠牲者の数が少ないというのがわかってきました。

まず避難訓練の参加率の問題です。宮城県名取市の閑上地区は、約7千人の人口で、約900人が津波被害で亡くなっています。10人に1人の方が亡くなるという、非常に多くの犠牲者がた地域です。

そこでの調査では、若者の約8割が全く防災訓練に参加したことがなかったということでした。でもすぐ海辺のところに閑上保育園があり、保育園の子どもたちは全員無事だったんですね。やっぱり日ごろから訓練をしていて、地震が起きた直後に園長先生が、すぐに子どもたちを押し込んで、近くの高台に避難させました。その子どもたちが車で逃げるのを見た人、その子どもたちを迎えに行った親や家族も、一緒に避難を助かったという証言も記録に残されています。

それから、実際に被害の大きかったところでは、防災教育とか防災訓練が形骸化していた。岩手県大槌町の赤浜公民館の震災記録誌には、「避難訓練も二割や三割しか参加していなかった。役員や本当に心配している人ぐらい。あとはそうはいってもここには津波は来ないよと思ってた。毎年毎年のことだし。そういう点も反省材料になると思う。一年前のときも、大きい津波が来るといわれていたが大したことがなかったのだから住民の意識は変わらなかった。三メートルと言われても一〇分の一ぐらいだと思っただけだったり、緊迫感は正直無かった。半ば形式・義務というような感じだった」

という声が掲載されています。

残念ながら、宮城県石巻市の大川小学校では多くの子どもたちが犠牲になりました。一方、被害が大きかったところでも、学校にいた子どもたちは、ほとんどが命を守れているんですね。岩手県釜石市も学校以外の地域では多くの方が亡くなったんですが、当時小学校にいた3千人の子どもたち全員が逃げるのができ、「釜石の奇跡」と言われました。そうした状況は、ほかの津波の被害があった沿岸も同様です。皆さんも存じのように、学校は毎年防災訓練をやるからです。防災訓練が多いところもあると思いますけれども、この東北の太平洋沿岸部は街並みを意識した防災訓練もきちんとやっていると多くありました。



大船渡市赤崎地区公民館での写真洗浄ボランティアの様子

### ▲自治会と自主防災組織

私は、地元の自治会で自主防災組織の書記をやっています、29戸の小さい自治会ですけれども、割と昔ながらの地の方が多くありますので、17、8年住んでいますけれども、まだ私なんかは新参者ですね。29戸で一緒にクリーン活動も共同でやったり、お祭りと一緒にカラオケ大会をやったり、常に交流しているところなので、顔と名前はもちろん一致しますし、全員大体家族の構成もわかるんですね。ですから、改めて要援護者のリストをつくることもない。あそこのおじいちゃん、おばあちゃん足が悪くて、いざとなったら手伝いに行かなきゃいけないとみんなが大体意識している。湧水もたくさんあったり、薪でお風呂を焚いているところもあつたり、煮たきもできたりします。

けれども、ただ、その自主防災組織がいつの間にか相模原市の防災連合組織の下部組織に位置づけられて指揮命令系統がでちゃったんですね。あれ、何か我々、市の防災本部の言うことを聞かなきゃいけないようになったのかなという感じですね。じきに衛星の携帯電話も配付されるとか、そうすると本部から何かいろいろと通知が来て、それに対応しなきゃいけないのかなど。本来なら自主的、自治的な活動なのに、それがいつの間にか、自分たちの意図しないような動きに巻き込まれていくんじゃないかなという感じもしています。

### ▲国土強靱化基本法の成立

こうした上からの防災組織づくりの動きや、津波が来たら高い堤防をつくるなど、とにかくハードを充実させていく動きが各地で見られる中で、私は「国土強靱化」という言葉にさらにひっかかるようになってきました。2013年にできた法律の正式な名称は、「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」です。この法律の第一章総則の第一条には、「この法律は、事前防災及び減災その他迅速な復旧復興並びに国際競争力の向上に資する国民生活及び国民



地域で防災対応と平和や人権の問題をセツトで考える

経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある大規模自然災害等に備えた国土の全域にわたる強靱な国づくりの推進に関し、基本理念を定め、国等の責務を明らかにし、及び国土強靱化基本計画の策定その他国土強靱化に関する施策の基本となる事項を定めるとともに、国土強靱化推進本部を設置すること等により、国土強靱化に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって公共の福祉の確保並びに国民生活の向上及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする」とあります。

実は、この第一条の「大規模自然災害等」の「等」は外さないのかと、国会でも議論がありました。が、外れませんでした。なぜかというと、この国土強靱化の基本的な考え方は、大規模自然災害だけが対象ではないからです。実はテロとか原発事故とか、場合によっては有事、朝鮮半島からミサイルが飛んできたというようなことも含まれます。最近、憲法改正の議論の中で、「緊急事態条項」という言葉が出てきました。あれも、まずは大規模災害が起きたときに、憲法に書かれている様々な人権を、国の権限で一時停止できるようにする条項です。要するに安全保障上の問題だけではなくて、まずは大規模、緊急事態の災害が起きたときという想定が示されている点が共通しています。

### ▲防災学習の重要性

もちろん災害に強いまちづくりという意味では、私たちは決してそれに反対するわけではないのですけれども、「我が国の防衛システムの脆弱性を克服する」というような別の目的がこの法律制定過程には見え隠れしてきたことも事実です。

「防災訓練」に対するイメージや言葉遣いに、抵抗を感じている方がいらつしゃるといふことも聞きました。東日本大震災が起きるまでは、社会教育の中でも防災教育の研究は全然進んでいなかったです。ましてや私が防災訓練とか、そういう言葉を使いながら話しをするといふことは予想もしなかったんですけれども、それをどういうふうに表示するかは別にしても、実際に地域で大きな災害が起きたときに助け合うための、日ごろの準備はしておかなきゃいけない。練習をしておかなきゃいけません。地域での取り組みをしっかりとやっていけば犠牲者が少ないことは、東日本大震災の経験からもすでに明らかです。残念ながら、東日本大震災では2万人という大きな犠牲者を出してしまいました。ですから改めて、地域での防災の取り組みといふのを進めていかな

きやいけない。今回のように皆さんお忙しい中、公民館に集まって地域の防災はどうあるべきかということを考えていただいているわけですから、こういう地域での防災学習が本当に必要になってきています。

一方で、今の政治の動きの中には、東日本大震災以降、防災への対応とセットで平和や人権の問題を考えざるを得ない状況も生まれてきているということにも、目を向けながら進めていくことが必要ではないかなと思います。

やっぱり一番大事なことは、とにかく生き延びることなんです。いくら総理大臣がものすごい権限を持つていようが、実際に災害が起きた時には、消防も警察も自衛隊も、すぐには来ませんし、市の職員も頼りになりません。被災後の復興過程とか、緊急段階での強力な権限とか、そういう問題は別に議論していかなくてはいけないのですが、最初の命を守るといって、命を自分たちで守っていくということについては、それぞれの個人、近所、地域の力しかないので。

自助・共助の取り組みをひろげる

私は国分寺市光公民館の公民館

運営審議会委員などをやらせてもらっていたので、国分寺市で防災の取り組みを始めました。国分寺市でも自治会が解散しなさいいけないとか、「自治会の加入を勧めない」とか、「自治会がないと聞いたから引越してきたのに」というようなことを言われた」という話を聞きました。

でも本当に首都直下型地震が起きたとき、この辺は水害とか津波とかは関係ないと思いますが、阪神淡路大震災のときは、多くの方が家具の下敷きになったり、その後の火災に巻き込まれたりしたわけで、同様の被害が出る可能性は高いわけですね。

その対応に向けて、自助・共助・公助の3つがありますけれども、実際災害直後は公助がなく自助と共助でやっていくことを前提に、強い地震が起きたらどうするか、みんなで考えていくために、一定の地域の皆さんで話し合いができる関係をどうつくるか、問われています。

それから、いろいろなニーズがあって、若い方も防災に関心がなくなっている、子どもを育てていけば、災害時に子どもをどう守ればいいのか心配しているし、学生などはインターネットを使って、年配の方とは違った情報を得てい

る。例えば、電車に乗っている若者から「Senior」で即時に電車が止まったこと、事実だけではなくどこでどういう状況で止まったかという情報が、JRより早く流れたりしています。そういうツールを活用して、若い人たちとのやりとりをどうスムーズにしていけるか、横のつながりを広げていくのか、私も考えているところです。

(以上、講演要旨)

\*2月の講座実施後、4月に熊本地震が発生しました。今回の講演要旨掲載にあたり、講師の野元さんにコメントをいただきました。

熊本震災から考える

2016年4月14日と16日に熊本地方を襲った地震は、震度7が連続して起こるといってこれまでにない断層型地震で、死者行方不明者50名、住宅被害が約4万棟に上る大災害となりました。私は4月末と5月末に支援と調査のために現地を訪れ、避難所での聞き取り等を行いました。そこで得た情報をもとに、熊本震災から何を学ぶべきかを考えます。

「まさかこんな大きな地震が来るとは」という言葉に象徴されるように、今回の熊本地震は防災対策が十分になされない中で発生し

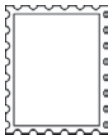


熊本地震で倒壊した家屋 (4月下旬)

防災訓練を実施していたというよりは、震災後に、あわてて対応に迫られたところが少なくなかったようです。こうした混乱は、支援物資の集積・配給、ボランティアの受け入れにも影響を与えました。改めて、地域単位での日頃の丁寧な防災訓練が重要であることがわかりました。

今回の震災では、家屋の被害で屋根瓦が落ちるなどの被害が多く、雨漏りを防いだりするためのブルーシートが大量に必要とされました。これは、首都圏での防災対策の見直しにつながる重要なポイントだと思われれます。首都圏でも、家屋の被害が想定されており、ブルーシートがやはり必要となると思われます。すでに、防災グッズに、ブルーシートを追加する地域も出てきているようです。また、車中泊の問題も、重要な課題として取り組まなくてはならないでしょう。余震が続く中、避難所から溢れた避難者が車中泊せざるを得ない可能性もあります。空地の確保やテントの準備なども必要となるでしょう。

まだまだ多くのことを熊本震災から学ぶことができます。是非、地域で、公民館で、話し合ってみてはいかがでしょうか。



〈親子で遊ぼう・考えよう〉

□□□-□□□□

## はがきアートを作って贈ろう!

敬老の日に、おじいちゃんおばあちゃんにアート作品を贈ろう! ひっかき絵、ビー玉コロコロ絵の2作品を作ります。完成したら、そのままポストに投函。親子で楽しく作って、感謝の気持ちを贈りましょう。

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 9月18日(日)朝10時~昼12時

ところ 公民館 地下ホール

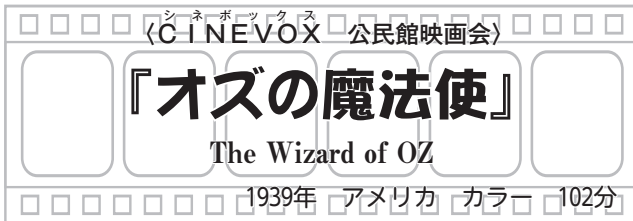
持ち物 はがき1人2枚、はがきサイズより大きな固い箱、切手、宛名、飲み物、汚れてもよい服装、ハンドタオル

対象 子ども(3歳以上~小学生)と保護者

定員 20組(申込先着順)

申込先 9月7日(水)朝9時~

公民館☎(572)5141



監督 ヴィクター・フレミング

原作 L・フランク・ボーム

出演 ジュディ・ガーランド、バート・ラー、ジャック・ヘイリー、レイ・ボルジャー ほか

大竜巻に巻き込まれて、魔法の国に迷い込んでしまった少女ドロシー。故郷へ帰るためには、エメラルドシティに住むオズの魔法使いに会わなければならない。ドロシーは、勇気がほしいライオン、知恵がほしいカカシ、心がほしいブリキ人形と一緒に、エメラルドシティを目指す……。夢と楽しさにあふれたミュージカル・ファンタジーの傑作。ドロシーを演じた当時16歳のジュディ・ガーランドは、その可憐さ、素晴らしい歌唱力で、一躍大スターの仲間入りを果たした。彼女が歌う主題歌「オーバー・ザ・レインボー(虹の彼方に)」(アカデミー歌曲賞受賞)は、今も歌い継がれる永遠の名曲。



とき 9月25日(日)昼2時~(開場 昼1時)

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)

\*申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。



## 子育て世代の防災講座

~いざという時に、子どもを守るために~

講師 あんどう りす

(アウトドア流防災ファシリテーター)

子育て中の方やお孫さんを預かることがある方、災害への備えを改めて見直してみませんか。

阪神・淡路大震災で被災した経験をもち、現在、子育て中のあんどうさんは「アウトドア流防災」を提案しています。自然の中で、いざという時に周りにあるものを使って身を守るように、アウトドアのノウハウを防災術に活かします。子育てグッズを防災グッズにするコツや、力がなくても人を起こしたり、移動させる技などを学びます。防災備品の試供品も配布予定です。

お子さんとご一緒でもご参加いただけます。

とき 10月7日(金)朝10時~昼12時

ところ 公民館 地下ホール 定員 30名(申込先着順)

申込先 9月8日(木)朝9時~

公民館☎(572)5141

〈くにたちブッククラブ 言葉のとげ、境界にたつ文学〉

## 三島由紀夫『近代能楽集』

(新潮文庫)

講師 榎本 正樹(現代日本文学)

とき 9月8日(木)夜7時半~9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館☎(572)5141

\*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

〈図書室のつどい〉

## これからの統計学のあり方

—統計学の現状と未来—

講師 渡辺 美智子(慶應義塾大学)

最近「ビッグデータ」という言葉を頻繁に目にするようになり、分析、活用等で統計に関する事項が急速にクローズアップされてきました。しかし日本における統計やデータ活用の有用性の意識は諸外国に比べて極めて低い認識です。これからの統計学に対するあり方やデータを利用して現代社会への貢献のあり方が重要になってきました。統計リテラシーの観点からお話を伺います。

〈渡辺さんの本〉

『問題解決学としての統計学』(日科技連出版社)、『実践ワークショップ Excel 徹底活用統計データ分析』(秀和システム)ほか多数。

とき 9月23日(金)夜7時~9時

ところ 公民館 3階集会室 定員 30名(当日先着順)

\*申し込みは不要です。ご自由においでください。

# 人生のあしあと マイ・ノート

～「これまで」そして「これから」～

講師 大原 悦子

(津田塾大学ライティングセンター特任教授)

これまでの自分を振り返り、生きてきた歴史を書き記してみませんか？ 人生で一番うれしかったこと、苦勞したこと、転機になったことなどを数十ページにまとめるとともに、この先の生き方を探ります。

回	日時	内容
1	9月29日	自己紹介と年表づくり、「はしがき」を書く ～思い出を振り返り、 だれに、何を伝えたいか考えよう～
2	10月20日	テーマを3つ決めて書く ～あなたの人生のハイライトは？～
3	12月8日	「あとがき」を書く ～これからやってみたいことは何？～
4	1月19日	発表会・交流会

いずれも木曜日、昼2時～4時。

ところ 公民館 3階講座室

定員 15名(申込先着順) \*全4回参加できる方

申込先 9月8日(木)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

## 緑のカーテン、育っています！

今年も公民館のグリーンカーテンが元気に育っています。また、プランターにもたくさんの花が咲き、彩を添えてくれています。これらの作業は、緑化ボランティアの皆さんが協力して行っています。季節の変化をお楽しみください。



↑公民館南側駐車場脇のプランター

## 〈公民館・NHK学園高等学校共催ワークショップ〉 子どもの育ち・若者の自立を支える「つながり」 —「協働」のためのラウンドテーブル—

講師・コーディネーター

長田 英史 (NPO法人れんげ舎 代表理事)

近年、格差社会の進展を背景に、子どもの貧困や若者の自立をめぐる、さまざまな取り組みが行われています。国立市内でも、子ども食堂や学習支援、仕事体験や就労相談支援など、子どもの育ち、若者の自立を支えようとする地域の活動が増えつつあります。今後さらに、この取り組みを地域全体にひろげていくためには、教育・福祉・就労などさまざまな分野での取り組みが有機的につながっていくことが求められています。

「場づくりで、自分らしく社会とつながる」ことを目指すれんげ舎の長田さんと、取り組みの担い手や関心をもつ市民、若者当事者が出会い、つながる場にしたいと思います。

とき 9月22日(木・祝) 昼2時～5時

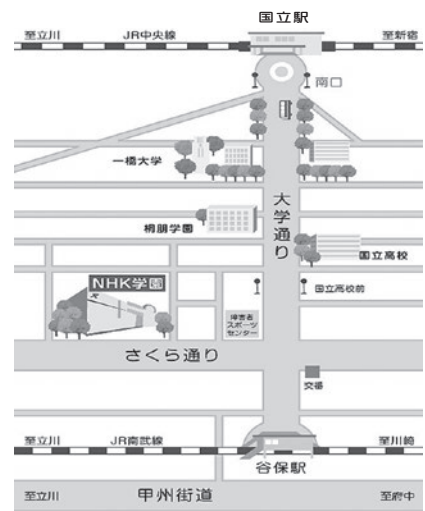
ところ NHK学園高等学校 定員 50名

申込先 9月6日(火)朝9時～電話かメール

公民館 ☎ (572) 5141

メール sec\_kominkan@city.kunitachi.tokyo.jp

※会場へのアクセス  
国立駅南口から徒歩約18分。  
バス(4番のりば乗車)約5分「国立高校前」下車。  
谷保駅から徒歩約8分。



## しょうがいしゃ青年教室 陶芸講座作品展



陶芸講座の参加者が作った、作品を展示します。作品展終了後は公民館の「喫茶わいがや」で使われます。おいでください。



とき 9月3日(土)～9月10日(土) 昼2時

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

\*陶芸講座は、くにたち郷土文化館で5月から7月まで行いました。

〈社会体育事業〉  
**「街を・山を歩く」第2回**

日時 10月3日(月)〈雨天中止〉  
 集合 国立駅北口 朝9時 対象 市内在住、在勤者  
 実施方面 東久留米市・小平市方面  
 (距離約10km、コース高低差なし)  
 チラシ 9月9日(金)から市役所3階生涯学習課、総合  
 体育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。  
 申込方法 チラシの内容を確認の上、9月12日(月)から  
 27日(火)の期間にお申し込みください。  
 申込・問合せ先 教育委員会 生涯学習課  
 社会教育・体育担当 ☎(576) 2107 (直通)

〈社会体育事業〉  
**60歳からの「健康体操教室」  
 参加者募集**

日時・会場  
 ① 10月4日(火)・11日(火)・18日(火)・25日(火)・  
 11月8日(火)  
 南区公会堂 フレスポホール  
 ② 10月24日(月)・31日(月)・11月7日(月)・14日  
 (月)・21日(月)  
 総合体育館 第三体育室  
 ※各5回ずつ実施。(①と②の内容は同じです)  
 いずれも朝9時30分から11時30分まで。  
 指導員 国立市スポーツ推進委員 塩野 啓子 他  
 対象 60歳以上(市内在住・在勤)  
 費用 保険料1日につき150円  
 募集人員 各30名(教室参加がはじめての方優先・応募多  
 数の場合抽選)  
 持ち物等 運動のできる服装・室内用運動シューズ・飲料  
 水・タオル・保険料  
 申込方法 往復はがきの往信用裏に、氏名(フリガナ)・  
 年齢・性別・住所・電話番号・希望する会場①  
 か②を明記の上、下記までお申し込みくださ  
 い。(はがき1枚につき1名、お一人様1会場  
 の申し込みでお願いします。)  
 ※返信用表にも住所・氏名を明記してください。  
 申込締切 ①は9月23日(金)、②は10月14日(金)必着  
 申込先 〒186-8501 国立市教育委員会 生涯学習課  
 「60歳からの健康体操教室」係  
 問合せ先 ☎(576) 2107 (直通)

〈外国人の方へ〉  
**にほんごサロンで友だちをつくりませんか?**

外国人の方がより住みやすい地域になるよう、一緒に考  
 え交流する場です。「生活の情報が知りたい」、「日常生活  
 で困っていることを相談したい」、「日本語でたくさん会話  
 がしたい」という方はぜひおこしください。  
 \*9月は中央図書館に行きます。  
 と き 9月16日(金曜日)朝10時~昼12時  
 (基本的に月に1回、金曜日午前中)  
 問い合わせ先 公民館 ☎(572) 5141

〈外国人の方へ〉  
**生活のための日本語講座  
 はじまっています!**

生活に必要な日本語を学びます。日本語のレベルに合わ  
 せて勉強ができます。小さな子どものいる方は、子どもを  
 あずけて勉強ができます(市内に住んでいる方)。

コース	曜日・時間	対象
入門	火曜日と木曜日 朝10時~11時半	これから勉強を はじめる方
初級Ⅰ	水曜日 朝10時~11時半	ひらがなの読み 書きができる方
初級Ⅱ	火曜日と木曜日 朝10時~11時半	日本語で簡単な 会話ができる方
会話	水曜日 朝10時~11時半	日常会話を学び たい方(初級~)
夜の部 初級	火曜日 夜6時半~8時	ひらがなの読み 書きができる方

\*各曜日の午前の講座終了後と土曜日の朝10時から、ポ  
 ランティアによる会話練習のサポートがあります。

場所 公民館 定員 各コースとも30人くらい  
 費用 テキスト代 2,500円くらい  
 申込・問合せ先 公民館 ☎(572) 5141

公民館運営審議会報告

8月9日(火)第30期第22回定  
 例会を開催。委員13名、館長、職  
 員1名が出席。傍聴1名。

前回の議事録確認

報告事項  
 ○公民館だより編集研究委員会  
 7・8月は記事が若い人向け中心。  
 若い人の参加を今後に期待する。  
 ○社会教育委員の会  
 7月26日の定例会において、生  
 涯学習振興・推進計画に係る諮問  
 について、公運審委員10人の個人  
 参加によるヒアリングを実施。後  
 日、議事録が公開される予定。  
 ○東京都公民館連絡協議会  
 研修会を9月3日に、講師・佐  
 藤一子氏、東大和市で実施予定。

議事

○第30期公運審答申について  
 I 取り組みの経過、II 諮問の背  
 景、III V 小委員会の原稿案の5  
 章から成る答申素案が提示され、  
 意見出しをした。小委員会は、そ  
 れぞれ「市民・公民館利用者」「公  
 民館職員」「行政管理者」につい  
 て取り組んだが、各対象への答申  
 の位置づけを巡り表題が議論とな  
 り、次回決定予定。また、小委員  
 会の原稿案は、それぞれ、1「目  
 的」2「現状」3「課題」4「提  
 案」の構成になっているが、「提案」  
 部分を全体で固め一つにまとめる  
 方向で検討していくこととした。  
 各章の細部についての意見出しも  
 行った。次回、全体をまとめた案  
 を正副委員長が提案の予定。  
 次回は9月13日(火)午後7時  
 15分から。傍聴歓迎。(富田)

## 公民館の記録冊子をご覧ください ～QRコードを活用しよう～

今年3月末に発行した『くにたち公民館60周年記念誌』や『第60回 くにたち市民文化祭記録集』など4冊の記録冊子をタブレット端末やスマートフォンで手軽にご覧いただくことができます。

下記のQRコードを読み取ると国立市ホームページ(公民館の冊子紹介)にアクセスできます。



\*QRコードを読み取る場合は、あらかじめ専用アプリをダウンロードして活用ください。

## サークル情報を 掲示しませんか?

各階の踊り場に、市内で活動している団体・グループを紹介するコーナーがあります。

「活動を紹介したい」、「メンバーを募集したい」という団体・グループは、所定の用紙に記入の上、公民館2階事務室までお持ちください。



### 「テニスクラブ フィフティ」

テニスを気軽に楽しみたい方  
入会しませんか?

大学生がコーチをしてくれ  
ます。コーチと一緒に試合を毎回して  
楽しんでいきます。

日時 毎週木曜日 朝10時～12時  
場所 谷保コート  
連絡先 望月090(1456) 0695

### レクリエーションクラブ員募集

頭の体操、体の健康を兼ねて  
現在健常者と障がい者と一緒に  
麻雀をしております。

女性の方を希望しております。  
日時 毎週月・木曜日1時～5時  
場所 都障害者スポーツセンター  
連絡先 本田(576) 0739

### 歌の会「ララランド」

毎月一回みんなで楽しく歌う会  
です。季節の歌、懐かしい歌、話  
題の歌等。歌好きの方、参加お待  
ちしています。毎月の予定は公民  
館の掲示板をご覧ください。

日時 月一回金曜日朝10時～11時  
場所 公民館 地下音楽室  
連絡先 青木090(726) 6258

### くにたち一芸塾写真クラブ

写真は一瞬を切り取ります。イ  
メージ通りの写真を撮れています  
か?デジタル技術にも詳しい講師  
と心に残る作品を作ります。

日時 第三土曜日午前中(予定)  
場所 福祉会館 講座室  
連絡先 大江(573) 0753  
tehgijuku@gmail.com

### ほんなりの会「おこしやす」

京都って「いいな」と思ってい  
る方、もっと知りたい方、もっと  
楽しみたい方、参加しませんか。  
おすめ処、京歩きなど、おしゃ  
べりしましょう。講演もあります。  
日時 毎月第二金曜日1時半  
場所 公民館 3階集会室  
連絡先 猪原080(111) 7983

### 第2回人権ビデオを見る会

今回は「温もりある社会を、野  
宿生活者とともに」(40分、神奈  
川人権センター企画 人権って、  
ななに第9巻)をみます。監督の  
金聖雄さんにもお話を伺います。  
日時 9月9日(金)夜6時半  
場所 公民館 3階講座室  
連絡先 押田090(3804) 4991

### くにたち国際友好会WING

9月の国際理解講座は一橋大学  
グローバル・リーダー選抜メンバ  
ーに一年間のアメリカ、ベルギー  
の留学体験を語っていただきます。  
講師は大石凌平さん、萩尾巨さん。  
日時 9月15日(木)夜6時半  
場所 一橋大学 国際交流会館  
連絡先 和田090(3497) 2110

### ボーイスカウト体験!!

ボーイスカウト活動を見て、体  
験しませんか?対象・幼稚園年長  
〜小学校低学年男女。保護者同伴。  
申込締切日9月15日。国立第2団  
日時 9月18日(朝)10時～昼1時  
場所 城山公園  
連絡先 神崎080(5697) 5381  
k-munekun@ezweb.ne.jp

## ひろば

(8ページにもあります)



### 和弓をひいてみませんか!

和弓は姿勢を良くし、集中力を  
養い誰にでも出来るスポーツです。  
初めての方も最初は会の用具を使  
えます。会費一回500円、詳細は夜  
7時以降電話を。くにたち弓友会  
日時 週一回(日)又は(土)の午前中  
場所 昭島市弓道場(東中神駅)  
連絡先 長谷川(576) 1489

### 輪踊りサークル(すみれ会③)

17年やっっている輪踊り数名募集。  
身体に良く認知症などの予防によ  
く音楽(ナツメロ等)をきいて自  
然に身体が動きます。楽しくやっ  
てます。どうぞお入り下さい。

日時 月一回日曜日(主に二週目)  
場所 東防災センター  
連絡先 井田(575) 4598

### 「きぬた會」会員を募集します

宝生流の謡の会です。正統的謡  
い方をモットーに上達に励んでい  
ます。伝統芸能に関心のある方、  
是非お越し下さい。宝生能楽堂他  
発表の機会が年数回あります。

日時 月2、3回(火)又は(金)昼3時  
場所 公民館 3階和室  
連絡先 武内(580) 0377

### ヘルシー体操サークル会員募集

いつまでも元気に生き生きと気  
持ち良く動ける身体づくり。身体  
を動かす喜びを一緒に分かち合  
いませんか?60代〜80代の乙女?達  
が身体と脳のリフレッシュ!

日時 毎週火曜日 朝10時～12時  
場所 総合体育館  
連絡先 吹井(574) 8413

### 水泳会員募集 アクアクラブ

夏です。初心者の方も泳げる方  
も一緒に泳ぎませんか。初心者も  
上級者も4人のコーチの指導を受  
け、楽しく泳いでいます。男女問  
わず新会員を募集しています。

日時 毎週金曜日 朝10時～12時  
場所 総合体育館 室内プール  
連絡先 佐藤(576) 4035

今月の公民館 (9月、10月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 3日(土) ~ \* 陶芸講座作品展
- 8日(木) 夜 くにとちブッククラブ  
三島由紀夫『近代能楽集』
- 18日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
- 22日(木・祝) 昼 公民館・NHK学園高等学校  
共催ワークショップ「子どもたちの育ち・若者の自立を支える『つながり』」
- 23日(金) 夜 \* 図書室のつどい  
「これからの統計学のあり方」
- 25日(日) 昼 \* CINEVOX 公民館映画会  
『オズの魔法使』
- 29日(木) 昼 ~ 「人生のあしあと マイ・ノート」
- 10月7日(金) 朝 「子育て世代の防災講座」

撮影 木下まち子さん(富士見台)



ひろば

(7ページにもあります)

マトリョーシカの会コンサート

ゲストは歌手のエカテリーナさんです。ゲスト演奏の他にも参加者全員でロシア民謡やロシアの歌を歌います。見やすいカナ付きの楽譜もあります。資料代500円  
日時 9月24日(土)朝10時~11時半  
場所 公民館 地下ホール  
連絡先 大貫(572) 5214

第21回くいしんぼクラブ

エステルのさんのスペイン料理  
パエリアを習いましょう。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参下さい。  
日時 9月24日(土)昼1時~  
場所 福祉会館 3階料理講習室  
連絡先 八宮(571) 1007

上映会 飯館村の母ちゃんたち

種まきネットウイークエンド福島inくにたち企画。古居みずえ監督ドキュメンタリー。3・11後畑を耕す女性達の泣き笑いに寄り添う。300円前売千円。中学以下無料  
日時 9月24日(土)夜7時~9時半  
場所 福祉会館 4階大ホール  
連絡先 狩野(080) 4351 1353

差別図書「全国部落調査」の出版差し止め訴訟について学ぶ会

今年2月、原告21名が出版差し止めとWeb掲載の禁止を求めて提訴。国立市民の宮瀧順子さんのお話を伺い、一緒に考えます。  
日時 9月30日(金)夜6時半~  
場所 公民館 3階講座室  
連絡先 上村(090) 8371 1814

\*「ひろば」欄投稿規定\*

市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。原稿の締切りは掲載希望月の前月7日午後5時です。会員募集は6カ月に一回掲載することができますが、紙面の都合により翌月掲載となる場合がありますので、ご了承ください。  
ファックスでの提出も可能です。  
Fax 042(573) 0480

\*「ひろば」写真募集中\*

国立の風景や行事、自然などの写真を募集しています。ご協力いただける方は公民館までご連絡ください。

〈サークル訪問300〉

くにたち子ども吟詠未来塾

その声は、「よく通る」といった形容を陳腐にする。起立して背筋を伸ばし深く息を吸って吟ずる姿は、直前まで背中を丸めて椅子に座り宿題をしていた姿とは別人だ。漢詩から和歌、俳句、新体詩まで題材は幅広い。皆で素読や合吟する時の細かい声が独吟では一転、人の声に感動を覚える体験は久々だった。

塾長の佐野祥燦(しょうぜん)さんは、二十年前に「祥燦流吟詠やき会」を結成すると同時に子ども詩吟教室を始めた。その後、市内小中学校での体験学習の指導、老人ホームや谷保天満宮梅まつりでの披露など子ども詩吟の活動の幅を広げてきた。同時に、文化庁の「伝統文化こども教室」や国立市の「こども未来塾事業」に認定されるなど塾の安定運営にも尽力してきた。昨年、塾生の小四男子が全国吟詠コンクール東日本大会で六位入賞、今年も惜しくも入賞は逃したが二名が出場を果たした。高齢者福祉と青少年健全育成への思い、長年にわたる努力の賜物だろう。

塾生は現在、小学生四名、中学生五名、高校生二名、大学生一名。

自分から興味を持って始めた子やその兄弟、同級生に誘われて、最初は親や祖父母に連れられて、など入塾のきっかけは様々だが、感想を聞くと皆楽しいと笑顔で答えてくれた。学校で積極的になれたという子もいる。指導の合間に学校の宿題をこなしたりと、子どもの自主性に任せた自由な雰囲気がある。子ども達は公私の区別や陰と陽のメリハリなどもこの塾を通じて学んでいるのかもしれない。月会費は三百円。公的な補助が二年前に途絶え、会場費を除く運営費を母体である「けやき会」から補助している。

日時 第二・四土曜日午前10時  
場所 くにとち福祉会館  
連絡先 佐野(576) 6518

〈文・写真 隈井裕之〉



上げばア~霊峰 富士イ~